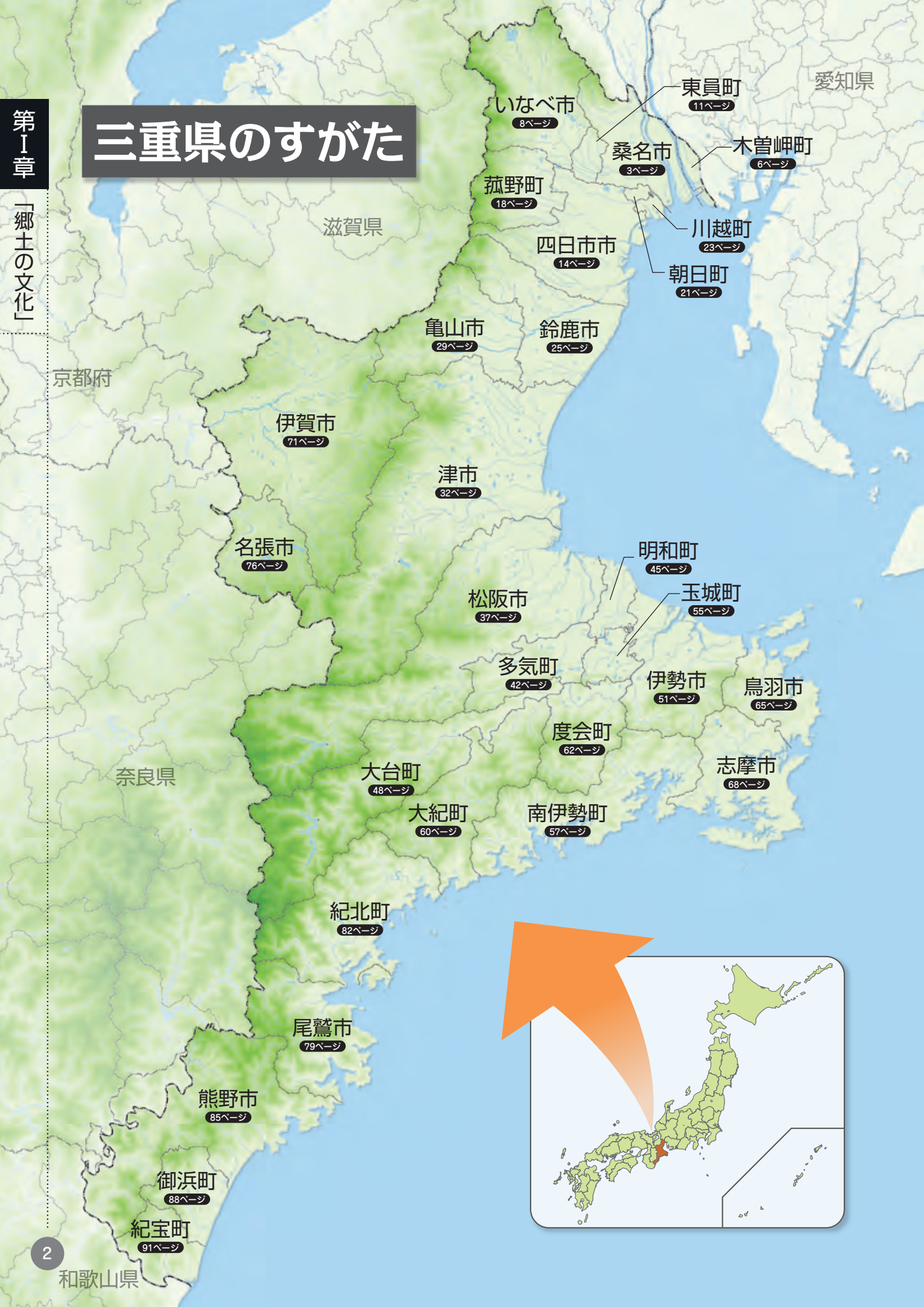




第I章「郷土の文化」

三重県のすがた



いなべ市 8ページ

東員町 11ページ

愛知県

桑名市 3ページ

木曾岬町 6ページ

菰野町 18ページ

滋賀県

四日市市 14ページ

川越町 23ページ

朝日町 21ページ

亀山市 29ページ

鈴鹿市 25ページ

京都府

伊賀市 71ページ

津市 32ページ

名張市 76ページ

明和町 45ページ

松阪市 37ページ

玉城町 55ページ

多気町 42ページ

伊勢市 51ページ

鳥羽市 65ページ

奈良県

度会町 62ページ

大台町 48ページ

志摩市 68ページ

大紀町 60ページ

南伊勢町 57ページ

紀北町 82ページ

尾鷲市 79ページ

熊野市 85ページ

御浜町 88ページ

紀宝町 91ページ



文化財

桑名市

ろっかえん
六華苑

六華苑は、大正から昭和初期にかけて、林産物の生産や加工・販売を行うかたわら、本県で最初の奨学金(財団法人諸戸家育英会)を設立した実業家、2代目諸戸清六の邸宅として1913(大正2)年に完成しました。この建物は、鹿鳴館の設計で有名なイギリス人建築家ジョサイア・コンドルが設計しました。建物は、4階建の塔屋をもつ木造2階建て、ヴィクトリア朝住宅の様式を基調とした洋館です。また、和館や蔵、池泉回遊式日本庭園などがあります。

外観の特徴として、北東の隅に立つ4階建の塔屋のほか、庭園に面して多角形に張り出した1階のベランダと2階のサンルームがあげられます。コンドルが描いた当初の図面では塔屋は3階建てでしたが、「揖斐川を見渡せるように」との清六の意向で4階建てに変更されました。また、内部のデザインは、1階は洋風ながら、2階は洋間に和風の襖が設けられるなど和洋折衷で、押し入れの中に収納棚を作り付けるなどの工夫がなされていました。

このように六華苑は、和洋の様式が調和した明治・大正期を代表する貴重な文化遺産であり、国の重要文化財に指定されています。また、庭園は国の名勝に指定されています。現在は、一般公開され、人々が語らい、憩う空間として、観光客でにぎわっています。



六華苑(桑名市提供)

【→P111*63】

- 建築家コンドルが設計した建物は、他にどんなものがあるのか調べてみましょう。

自然

桑名市

木曾三川と治水

木曾三川とは、濃尾平野を流れる木曾川、揖斐川、長良川の総称です。全てが木曾川水系に含まれ、濃尾三川とも呼ばれています。かつて、この三本の川は、下流部で合流・分流を繰り返し、たびたび水害を起こしていたため、江戸時代以降、何度となく改修が行われてきました。

有名なものは薩摩藩が行った宝暦治水と、オランダ人技師ヨハネス・デ・レーケらによる木曾三川分流工事です。

江戸時代、幕府は1753(宝暦3)年に薩摩藩に御手伝普請という形で川普請工事を命じ、翌年薩摩藩は家老の平田靱負を総奉行に任命し、藩士を現地に派遣して工事にあたらせました(宝暦治水)。桑名市内にはそのときの薩摩藩士の墓があります。

また、1877(明治10)年には、明治政府によって招かれたオランダ人技師ヨハネス・デ・レーケが治水工事に派遣されました。洪水対策・輪中堤防内の排水改良・舟運の改善を主な目的として、三川と周辺の地形を調査し、分流計画書を作成、1887(明治20)年に分流工事が着工されました。その結果、当時の最新技術に基づいた分流工事は著しい効果を挙げ、水害による死者、全壊家屋または流失家屋は劇的に少なくなりました。

【→P110*22、*27】

- この地域は地質学的に、数百万年前から平均して毎年約0.5mmほどの速度で地盤が動いています。どのように地形が変わってきたか、また、人々はどんなふうにより工事を進めてきたか、この地域の地形の変化を時間軸で整理してみましょう。



木曾三川河口付近(桑名市提供)

史跡

桑名市

七里の渡跡

1601(慶長6)年正月、江戸と京都を結ぶ東海道が制定され、桑名宿と宮宿(名古屋市中熱田区)の間は、海路7里で船を使っていました。所要時間は3~4時間と推定されますが、潮の干満によりコースは違っており、時間も一定ではなかったようです。

ここは伊勢国の東入口にあたるため、天明年間(1781~1789)に、伊勢神宮の「一の鳥居」が建てられ、以来伊勢神宮の遷宮ごとに建て替えられています。

明治になって、東海道制度は廃止となりましたが、揖斐川上流の大垣との間を行き来する客船や荷物船の発着場となっていました。

1959(昭和34)年の伊勢湾台風以後の高潮対策工事のため、渡船場と川の間には防波堤が築かれて、昔のありさまは著しく変化し、港としての機能は全く失われました。1988(昭和63)年から翌年にかけて、付近の整備修景工事が行われました。

現在、堀川と新堀川の合流点に常夜燈があります。これは1833(天保4)年に江戸や桑名の人々の寄進によって建立されたもので、当時は鍛冶町の東海道筋にありましたが、交通の妨げになるとのことで、この場所に移築されました。1962(昭和37)年に台風で倒壊したので、台石は元のまま、上部は多度大社から移したものになっています。

現在、七里の渡跡は県指定史跡となっています。



七里の渡跡と一の鳥居(桑名市提供)

- 東海道の宿場町について調べてみましょう。

祭り
桑名市

いし どり まつり
石取祭

石取祭は桑名市に伝わる祭りです。毎年8月第1土曜日の午前0時から日曜日深夜まで行われます。参加する町内毎に大太鼓1張と鉦を4~6個持つ祭車があり、30数台が寄り集まってそれぞれにおはやしを打ち鳴らし練り歩くことから、「日本一やかましい祭り」とよばれています。土曜日午前0時からを「叩き出し」、土曜日夜を「試祭」、日曜日を「本祭」とよび、本祭は毎年決められる順序にしたがって桑名宗社(春日神社)前でおはやしを披露します。

騒々しい祭りなので、厳しいきまりがいくつかあります。例えば叩き出しは、春日神社前でちょうちんが振られた瞬間を開始とし、一瞬でも先走ると翌年の参加を禁じられるそうです。

祭車のなかには、立川和四郎富重、高村光雲が彫刻を施したもののや、天幕に豪華な図柄が描かれた、歴史の長いものもあります。起源は、江戸時代初期に神社の祭場へ町屋川(員弁川)の石を奉納した神事といわれています。当時は三祭礼のひとつでしたが、独立・発展し、今の形となりました。

1981(昭和56)年に三重県無形民俗文化財の指定を受け、2007(平成19)年には「桑名石取祭の祭車行事」の名称で、国の重要無形民俗文化財に指定されました。



勇壮な石取祭(桑名市提供)

【→P110*8】

- 春日神社の流鏝馬神事の馬場修理のため、町屋川から石を運んだのが「石取り」の語源だといわれています。県内で他に石取祭が行われているところも調べてみましょう。【→P13】

COLUMN ミエゾウ
コラム

今から約430万年前から約360万年前には、三重県にもゾウがすんでいました。そのゾウはミエゾウとよばれています。ミエゾウは大型のゾウで、ステゴドンのなかまです。学名はステゴドン・ミエンシスといいます。「ミエンシス」のミエは「三重」を表しています。

ミエゾウの全身骨格の復元はされていませんが、ミエゾウに近いツダンスキーの一種であるコウガゾウ(黄河ゾウ)の化石から、全長が約8m、肩までの高さが約4mであると推定されています。

県内では、ミエゾウの化石が河川に堆積した東海層群から多く見つかっています。北から桑名市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、津市の10か所以上のところで見つかっています。

見つかっている化石の部位は、臼歯、切歯(門歯)、大腿骨などです。三重県以外では、大分県、長野県、東京都などから発見されています。



上:ミエゾウの復元図
下:ミエゾウの上顎付臼歯
(三重県立博物館提供)

きそさき 木曾岬町



- ① トマト 全域
- ② 伊勢湾台風 全域



特産物

トマト

木曾岬町

終戦後、食生活も変わり、農家では、これまでのように菜種や馬鈴薯の裏作では採算が合わず、1956（昭和31）年にビニールハウスによるトマト栽培が行われました。木曾川河口のデルタ地帯に広がる木曾岬町の温暖な気候が見事に適合し、糖度が高いトマトが収穫されました。以来、名古屋市場が近いという立地も加わり、30年以上前からトマトの指定産地として、県内最大の栽培面積を誇り、昭和40年代にはトレードマークの「⊕」は全国にその名を広げました。

「ハウス桃太郎」を始め、いろいろな品種のトマトの栽培で、木曾岬町は全国的に知られています。農家の人々のきめ細かな管理が実を結び、10月から翌年6月まで途切れることなく収穫されます。また、ビニールハウスの大型化や、一部農家におけるロックウール栽培の導入による多収・低コスト生産の工夫が進められています。10数年前にはマルハナバチの導入による労力の削減などの取組、最近ではトマト栽培への新しい技術の導入による省力化の取組も進められてきています。



トマト栽培（木曾岬町提供）

■ 農家の方はトマト栽培において、他にどんな工夫をしているのか調べてみましょう。

災害

木曾岬町

いせわんたいふう
伊勢湾台風

「伊勢湾台風」は上陸時、日本では史上3番目に気圧が低い929.2hpa（ヘクトパスカル）を観測した超大型の台風で、室戸台風、枕崎台風と並ぶ昭和の3大台風といわれています。

1959（昭和34）年9月26日の夜に上陸した「伊勢湾台風」による高潮のため、木曾岬村（当時）の南半分の堤防は寸断され、死者328名、流出家屋171戸、全壊家屋95戸などの今まで経験したことのない大きな被害を受けました。木曾岬町内には、現在もたくさんの慰霊碑が残っています。

台風によって学校も損傷を受け、12月に仮復旧するまでの間、小中学生は三重県鈴鹿市内の鈴峰荘という施設で、教師とともに寄宿生活を送りながら勉強しました。親と離れての生活はとても寂しいものだったそうです。

被害からの復旧のために、たくさんの人々が天秤棒を担いだり、トロッコを押ししたりして、作業をしました。しかし、台風による塩害で、その後何年も田畑が不作となるなどたくさんの苦労がありました。



当時の伊勢湾台風の様子（木曾岬町提供）

- その後、たくさんの人々の努力によって台風に対する取組が進められてきました。どんな取組が進められてきたか調べてみましょう。

COLUMN
コラム

わ じゅう
輪 中

輪中は愛知県、岐阜県、三重県の県境を流れる木曾川、長良川、揖斐川とそこに流れ込む小さな川の流域で、水防のための共同体がある地域をいいます。伊勢湾に注ぐ川によって土砂が運ばれ、海上にできた寄り洲に葦草が生え、洪水のたびに土砂は堆積を繰り返し、これらの地域の地形が誕生したと考えられています。三重県では桑名市多度町の一部、桑名市長島町、桑名郡木曾岬町が輪中を形成しています。

江戸時代の始め頃から次第に干拓が行われ、多くの輪中が作られ、農業や漁業が営まれる中で治水や利水のための組織が作られました。輪中で堤防が切れると輪中内全域が水没し、大きな被害が生じて死活問題になるので、水害に備えて水防組を作ったり、堤防には水防小屋を作ったりしました。個人では、屋敷の一部を高く盛って水屋を作って避難場所にするなどの自衛手段を工夫しました。

輪中地域では河川がもたらす豊かな土砂と堀田に代表される豊富な水によって多くの作物が作られてきました。

【→P111*64】

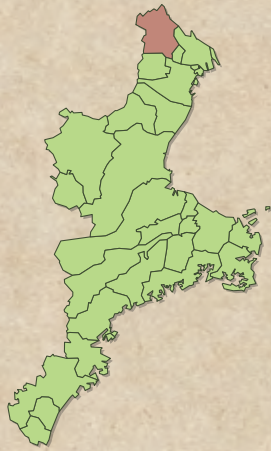


輪中の航空写真（輪中の郷提供）



輪中を横から見たイメージ図（輪中の郷提供）

いなべ市



- ① 刻限日影石
- ② まんぼ(間風)
- ③ 篠立の風穴
- ④ ネコギギ(ナマズ目ギギ科)
…希少種により非公開



文化財

いなべ市

こくげん ひ かげいし 刻限日影石

笠田大溜はもとは野摩池と呼ばれ、古くから近在の水田の溜池として、利用されてきました。1601(慶長6)年桑名城主となった本多忠勝の命によって改修が行われ笠田池となり、さらに、1635(寛永12)年桑名藩主となった松平定綱の命によって堤防が築かれ、笠田大溜と呼ばれるようになりました。その後も、たびたび修理や改良がされて、今のような形になりました。こうして長い間、苦勞し、費用を費やしてきた笠田大溜は、笠田、宇野、大泉新田などの水田を潤すことになりました。

しかし、新田開発が進んで水田が増え続け、日照りが続くと、大溜の底が見えるほどの水不足になってしまいました。そのため、笠田新田と隣の大泉新田の両新田の間では、水利権をめぐる長い間争いが絶えませんでした。そこで1847(弘化4)年、大泉村庄屋、懸野松右衛門という農夫の工夫で「刻限日影石」が建てられました。刻限日影石とは、日時計になっていて、日の出と、午後5時の時刻をはかり、昼間は大泉新田、夜は笠田新田が用水を利用することになっています。こうして笠田新田と大泉新田に、公平に水が供給されるようになり、争いはようやく治まりました。刻限日影石は、1967(昭和42)年県指定の有形民俗文化財に指定されています。【→P9,12,78】



刻限日影石 (いなべ市教育委員会提供)

■ あなたの地域では、貴重な水を大切に使うために、どんな約束や工夫があったか調べてみましょう。

歴史

いなべ市

まんぼ (間風)

まんぼは、水不足を解消するため、地下2～10mを素堀でトンネル式に横穴を掘り、地下水を集めて農業用水にしたものです。鈴鹿山麓^{さんろく}一帯に約300あるといわれており、そのうち、いなべ市大安町には100あまりが確認されていて、現在も多くの水田を潤^{うるお}しています。世界中を見ると、横井戸で地下水を利用するものは、イランやイラクに「カナート」と呼ばれるものがあります。

まんぼの工事の記録の中で古いものは、大安町の「片樋のまんぼ」があり、工事を始めたのは1770～1771年(明和の末期)といわれています。「どこへ、どんな形になろうとも絶対文句は言わない」と全員の確約を取って、庄屋、農民が一体となって工事が進められました。慣れない工事で事故も多く、初めにできた時には、水は少ししか流れず、水田を潤すにはほど遠いものでした。その後、庄屋も私財をなげうって難工事を進め、やっと念願の水が流れ始めたのは、1775(安永4)年7月のことでした。

その偉業をたたえ、水利の安全を祈願するため大安町片樋地区では、毎年7月1日に「まんぼ祭り」を行っています。また、まんぼ祭りは、北勢町中山でも行われています。



片樋のまんぼ (いなべ市教育委員会提供)

- ・まんぼの作り方や、まんぼのそうじの仕方、まんぼの分布を調べてみましょう。

自然

いなべ市

しのだち かざあな
篠立の風穴

藤原町の篠立地区に「篠立の風穴」という洞穴^{どうけつ}があります。この洞穴は、石灰岩でできた地層が水と二酸化炭素によって侵食されてできた鍾乳洞^{しんじょく}です。この地方としては大きな洞穴で、昔は入り口付近を養蚕^{ようさん}に利用したこともありました。

総延長は約280mで、洞穴には石筍や石柱などの鍾乳石が見られます。また、洞穴内で冬眠や出産をするキクガシラコウモリや、洞穴性の希少生物^{きせうせいぶつ}であるイセカマドウマやウエノホラケヤステが外界から閉ざされた静寂^{せいじやく}な環境の中で生息しています。

この洞穴で発見され、命名された生物は、イチハシヤステ・スズカホラヒメグモなどがあります。昆虫だけでも40種類近く生息しています。篠立の風穴は、1977(昭和52)年3月28日に県の天然記念物に指定されました。

この洞穴は、地質学的にも生物学的にも非常に貴重なもので、地域の文化財を自然の状態で後世に残すために、人為的な環境の変化を極力さけています。【→P8,12,78】



篠立の風穴 (いなべ市教育委員会提供)

- ・洞穴に生きている生物について調べてみましょう。

天然記念物

いなべ市

ネコギギ(ナマズ目ギギ科)

ネコギギは、三重県、岐阜県、愛知県の伊勢湾周辺域河川かせんにのみ分布する日本固有の純淡水魚じゅんたんすいぎょです。1977(昭和52)年に国の天然記念物に指定され、清流の象徴しょうちゆう(シンボル)といわれています。

体長は10cm前後で、口に4対のひげを持ち、背びれと胸びれにとげがあり、体色は黄褐色おうかつしよくから暗褐色あんかつしよくです。夜行性で、昼間は川岸がしやうや河床の岩、巨れきの下にできる隙間、水際に生えた植物などの根の間などに隠れています。夜間は、流れの緩やかな平瀬ひらせや淵ふちなどに泳ぎだして、餌えさとなる水生昆虫などを探します。

いなべ市の中央を流れる員弁川いなべとその支流は、魚類相の豊富な水系として知られており、過去には多くのネコギギが生息していました。しかし、1995(平成7)年以降に実施された生息状況調査では、2001(平成13)年までに同水系の一河川で数個体が確認されただけで、危機的な状況になっていることが分かりました。そこで、2003(平成15)年度と2005(平成17)年度に、緊急的措置きんきゅうてきそちとして、三重県教育委員会が文化庁の補助を受け、「員弁川水系ネコギギ保護増殖事業ぞうしょく」を開始しました。2006(平成18)年度からは、いなべ市がこれを引き継ぎ、ネコギギの個体数を増加させ、河川への放流により、野生個体群を復活させることを目的として文化庁の補助を受け、地元に着した事業を展開しています。



ネコギギの親子(志摩マリランド提供)

- 近くの川や用水路などに住んでいる生き物を調べてみましょう。

COLUMN
コ ラ ム条例で守られている魚たち
～カワバタモロコ・ウシモツゴ～

川や湖沼、池、水田の水路には多くの魚が生活しています。一生を淡水域で生活する種だけではなく、サケのように川で産まれて海にくだって成長し、再び繁殖のために川をさかのぼる種類もあり、その生態は様々です。これらの魚は淡水魚や川魚とよばれ、水流の強さ、水深、水温、水質などによって、生息する種類が異なります。

カワバタモロコやウシモツゴは、ため池や農業用水路の緩やかな流れの場所を好みます。最近では土砂の堆積による生息環境の悪化に加え、人による乱獲やブラックバスなどの外来種による捕食により、三重県内で確認できる場所はほとんどありません。全国的にも危機的な状況にありますが、保護措置がとられている例は多くありません。三重県では、両種を特に保護する必要のある種であると考え、三重県自然環境保全条例に基づいて、『三重県指定希少野生動植物種』として指定して、捕獲や採取などを制限しています。



カワバタモロコ(鳥羽水族館提供)



ウシモツゴ(鳥羽水族館提供)

とう いん 東員町



- ① 七世 松本幸四郎
- ② トウインヤエヤマザクラ
- ③ 六把野井水・神田用水
- ④ 穴太薬師如来坐像

人物

東員町

しちせい まつもとこうしろう 七世 松本幸四郎

松本幸四郎という名前を聞いたことがあると思います。歌舞伎の「勸進帳」の名演技で知られる七代目松本幸四郎は、1870（明治3）年5月12日に、今の東員町長深ながふけに生まれました。小さい頃の名前は豊吉とよきちといいました。父親は土木事業を行っており、福田屋ふくだの親方といわれていました。父親の仕事の都合で4歳の時に東京に出ました。5歳で、踊りの名門藤間流家元二代目藤間勘右衛門ふじま かんえもんの養子となり、11歳で歌舞伎の九世市川團十郎いちかわだんじゅうに入門しました。

一時、歌舞伎よりも当時流行していた飛行機の発明に熱中したり、役柄やくがらに不満をもらしたと他の弟子に告げ口をされ、師匠かんきの勘気に触れて役を外されたりしたこともありましたが、厳しい稽古けいこに耐えて芸を磨きました。その後、九世市川團十郎の直系の芸である、「勸進帳」を演じるなど名声を高めました。「勸進帳」の弁慶べんけい役は、不朽ふくきゅうの演技として後世に語り継がれることになりました。1949（昭和24）年に80歳で亡くなりました。

現在の九代目松本幸四郎の祖父にあたります。



七世 松本幸四郎（東員町提供）

【→P111*47】

東員町には、松本幸四郎の名声を後世に伝えるためのものがあります。調べてみましょう。

自然

東員町

トウインヤエヤマザクラ

トウインヤエヤマザクラは、品種改良された桜ではなく、自然の環境の中で変異したものです。1994(平成6)年に発見され、桜の分類学上とても価値の高いものだとわかり、1996(平成8)年に町の天然記念物に指定されました。

奈良の八重桜に似ていますが、葉や花柄に毛がなく、一つの花にめしべが2本あるものがあるが、開花が終わると柄の先に実が二つずつ並んで付きます。全国的にもヤマザクラの八重は珍しいものです。

1953(昭和28)年に京都府の亀岡市で発見されたコノハナザクラと同じ特徴を持っていますが、大変めずらしい品種といわれています。

東員町では、町の北部山田溜公園南駐車場の東側と弁天山の厳島神社の裏手の2か所で発見されています。

春になると、ボリューム感のある、やや薄手の淡いピンクの色合いの花を咲かせます。



トウインヤエヤマザクラ(東員町提供)

- めずらしい品種が、生活の場の近くにあるのも不思議です。私たちの身の回りに、まだまだ気がつかない自然があるかも知れません。探してみましょう。

歴史

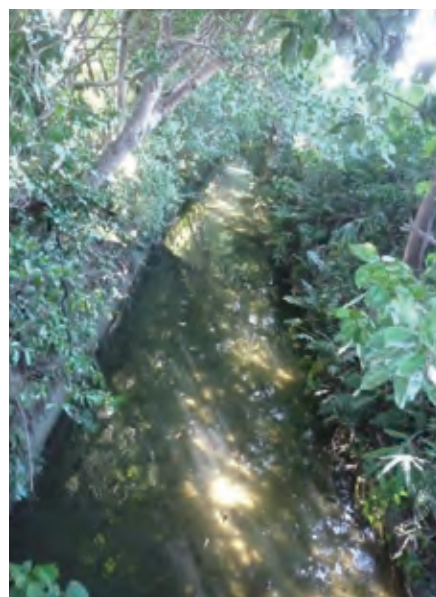
東員町

ろっばのいすい かんたようすい
六把野井水・神田用水

町の中心部を流れる員弁川の北側(左岸)は、河岸段丘の上に広がる小高い土地で、昔から大雨が降ると急に大水になり、日照りが続くとすぐに水不足になってしまう土地でした。

こうした水不足を無くそうと、江戸時代に旧北勢町の麻生田付近の員弁川から水を取り、八幡新田を経て現在の桑名市大仲新田まで幅2~5m、長さ約12kmの用水を通しました。これが六把野井水で、現在も農業用水として使われており、その一部は稲部小学校の下を流れています。

しかし、流れの一番下にあたる東員町は、その後もたびたび水不足になり、1944(昭和19)年には7月になっても田植えができないほどの大干ばつに見舞われました。人々の願いが県や国に届き、1950(昭和25)年、員弁川の水を今の笹尾の高台まで3か所のポンプで導き上げ、そこから隔々の土地に送る神田用水が完成しました。員弁川北側の土地が、水不足から解放されることになったのは、つい最近のことです。



稲部小学校横の六把野井水(稲部小学校提供)

- 東員町には万助溜や山田溜など、たくさんの溜め池があり、神田用水の碑もあります。各地域に残されている「豊かな水」を巡って工夫した人々の足跡を調べてみましょう。

文化財

東員町

あ の う や く し に よ ら い ざ ぞ う
穴太薬師如来坐像

薬師如来坐像は、穴太の神田神社
に隣接する薬師堂に安置されています。

平安時代中頃の作品とされ、県の有形文化財に指定されています。一本のヒノキから作られた「一本造」の仏像で、高さは二尺九寸五分（約90cm）、蓮の花をかたどった台座（蓮華座）の上に結跏趺坐（左の足を右のものの上に置き、右の足を左のものの上に置いて座る座り方）をしています。左手には薬つぼ（薬壺）を持ち、右手は、手のひらを前に向けた、「恐れなくてよい」と相手を励ますサインである「施無畏の印」を表しています。目がやや切れ長でりりしい顔立ちをしています。

仏像をよく見ると薄く色がついていますが、これは、江戸時代に修理を行った際、体を金色に、衣を黒色に、髪の毛（羅髮）を紺色に、口を朱色に、背を灰色に塗ったためのものです。

鎌倉時代、この地の守護であった藤原実重の日記によると、かつてこの地に穴太山多井寺という大きな寺があったと記されています。



薬師如来坐像（東員町提供）

■ みなさんの地域にある文化財を調べてみましょう。

COLUMN
コ ラ ム

三重の石取祭

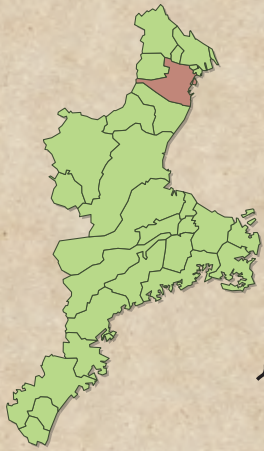
8月第1土・日曜日に桑名市春日神社周辺で行われる石取祭はその規模も大きく「天下の奇祭」と呼ばれるほどです。これ以外にも、「石取祭」は三重県北勢地方に数多く点在しています。ここでは地域の祭りとして伝統的に開催されている他の石取祭を紹介しましょう。

- ◆桑名市 赤須賀地区：赤須賀神明社周辺
多度七取地区：内母神社周辺 など
- ◆東員町 穴太地区：巖島神社
六把野地区：六把野神社 など
- ◆川越町 豊田一色地区：神明神社周辺 など
- ◆四日市市 富洲原天力須賀地区：住吉神社周辺
富田地区：鳥出神社周辺
八郷地区：山分町山分天満宮、千代田町鶴澤神社
大矢知地区：松寺町神明社 など
- ◆鈴鹿市 神戸地区：神戸宗社周辺 など

各地の石取祭は7月～10月に行われており、太鼓や鉦の音とともに祭車をひきながら町を練り歩くさまは共通しています。上記以外でも各地でにぎやかに石取祭が行われています。あなたの町の石取祭も調べてみましょう。

【→P110*8】

よっかいち 四日市市



- ① 四日市萬古焼
- ② お茶栽培(伊勢茶)
- ③ 四日市祭
- ④ 稲葉三右衛門
- ⑤ 四日市港
- ⑥ 東海道とお土産
- ⑦ 石油化学コンビナート

伝統工芸 四日市市

ばんこやき 四日市萬古焼

萬古焼は四日市市の地場産業で、「国の伝統的工芸品」にも指定されていて、急須や土鍋の生産で有名です。

特に、土鍋の生産高は国内の7割以上を占めていて、耐熱性に優れているのが特徴です。また、急須では、紫泥急須が四日市萬古焼のシンボリック的存在となっています。

四日市萬古焼の歴史は、山中忠左衛門から始まります。忠左衛門は、それまでの萬古焼(朝日町の森有節が考案した有節萬古【→P22】)を10数年研究しました。当時、有節萬古をつくる方法や技術は秘密になっていたため、その技術を身につけることは困難だったのです。しかし、1870(明治3)年に本格的に萬古焼を作り出すことができました。そして、自分が得た技術を地域の人々に教え、萬古焼を発展させました。その後、水谷寅次郎が半磁器の製造技術を開発したことで、さらに発展しました。半磁器は原料の土生地の半分が土、もう半分が石から成っており、温かみのある製品になっています。

萬古焼は、全国に流通しているだけでなく、四日市港から海外へもたくさん輸出されています。



急須

【→P111*51、*52】

■ 萬古焼のさまざまな作品や製品を調べてみましょう。

特産物

四日市市

さいばい
お茶栽培(伊勢茶)

三重県で生産されたお茶のことを「伊勢茶」といいます。【→P37、50】

三重県は、茶の栽培面積・生産量・生産額ともに、静岡県、鹿児島県について全国第3位(2008年度)です。

四日市市の水沢地区では、かぶせ茶の生産が盛んです。お茶の葉の新芽に黒い覆い(寒冷紗)をかぶせて、直射日光をさえぎる方法でつくられます。まろやかなうまみをもった味が特徴で、付加価値のあるお茶といえます。

また、伊勢茶は他産地のお茶の原料用茶として出荷されることが多く、「伊勢茶」として販売している割合は、18.5%(2004年度)です。このことから、伊勢茶をブランドにする取り組みも進められ、2007(平成19)年に特許庁の地域団体商標に伊勢茶が認定登録されました。【→P87】



水沢地区のお茶畑(四日市農業センター提供)

【→P111*33】

- お茶づくり(栽培や加工)の工夫について調べてみましょう。

祭り

四日市市

四日市祭

四日市祭は、諏訪神社の例祭(毎年7月27日)として行われてきました。江戸初期にはすでに行われ、回を重ねるごとに、各町の練物が増え、江戸時代後半には祭りの形が整ったようです。明治になると、祭りは9月25日～27日に行われるようになりました。合計30もの練物(大型の山車4台、小型の山車14台、鯨船山車3台、釣物4組、大名行列2組、その他練り物3組)がそろい、東海地方でも有数の祭りとなり、「東海の三大祭り」「日本の奇祭」ともよばれていました。

しかし、戦災によって大半の山車や練物は焼失してしまいました。戦後は、戦時中疎開して残った鯨船(明神丸)や大入道などが徐々に復活しました。やがて1964(昭和39)年からは、8月の第1日曜日を中心に催される「大四日市まつり」にこれらの山車や練り物が登場しました。

近年では、復元された山車もいくつか登場し、秋の祭りも復活しています。



大入道(四日市市立博物館提供)

【→P111*62】

- あなたの住んでいる地域に残る山車にはどんなものがあるか、調べてみましょう。

人物

四日市市

いなばさん えもん
稲葉三右衛門

稲葉三右衛門は、江戸時代末から明治時代初期に、港の維持と修築に苦心をし、四日市港が発展するきっかけをつくりました。

古くからあった港は、江戸時代の末の「安政の大地震」(1854年)で被害を受け、次第に船の出入りができないようになってきました。それでも1870(明治3)年には、四日市-東京の定期航路ができ、蒸気船が来るようになりました。それを見た稲葉三右衛門は、これからは蒸気船の時代になる、四日市の発展のために大きな船が出入りできる港にしたいと考えました。そこで、新たに運河を掘って海を埋め立て、築港工事をしようと計画したのです。

1873(明治6)年に県から許可があり、同年には自分の土地から工事を始めました。1874(明治7)年に埋め立て地と運河はできあがったものの、資金がなくなり工事を中断しました。1875(明治8)年に県が工事を引き継ぎましたが、これも中断しました。この間、三右衛門は資金調達に苦心しつつ工事の継続を願い出て、やっと1881(明治14)年に認められ、1884(明治17)年に工事は完了しました。



肖像画(四日市市立博物館提供)

【→P111*61】

▪ その後、四日市港の築港のために活躍した人々と、その仕事の内容について調べてみましょう。

産業

四日市市

四日市港

四日市港は、全国に23ある、「特定重要港湾」の一つです。日本の国際海上輸送網の拠点として、特に重要な港です。さらに、スーパー中核港湾にも指定され、国際コンテナ輸送でも重要な港です。

霞ヶ浦の埠頭には、巨大なクレーン「ガントリークレーン」が目につきます。短時間でたくさんのコンテナを積み下ろすことができます。また、コンテナターミナル、モータープール(新車を船に乗せるための広い駐車場)、石炭の貯炭場などがあります。第1、第2、第3埠頭では、穀物サイロや穀物専用の大きな機械や倉庫があります。

このほか、服部長七により修築された旧港の潮吹き防波堤、運河にかかる末広橋梁(跳上橋)などの近代化遺産もあり、国の重要文化財になっています。



霞ヶ浦地区のコンテナターミナル(四日市港管理組合提供)

【→P111*61】

▪ 四日市港の輸出入品について調べてみましょう。

歴史

四日市市

みやげ
東海道とお土産

文献の中ではじめて四日市の名前が登場するのは、室町時代です。1473(文明5)年の外宮庁宣には「四ヶ市庭浦」と書かれています。このことから当時の四日市は、「市庭=市場」と「浦=湊」の発達した町だったことがわかります。

四日市は、江戸時代には東海道43番目の宿場町として栄えました。1843(天保14)年には1811軒の家々が建ち並び、そのうち旅籠98軒、本陣2軒、脇本陣1軒で、人口7114人という、東海道の中でも有数の宿場町になっていました。また、四日市湊(現在の四日市港)は、熱田との間の「十里の渡し」として利用されました。さらに、富田と日永は「間の宿」として栄えました。富田は名物の焼蛤を売る店が軒を連らね、日永は東海道と伊勢街道(参宮街道)の分岐点として栄えました。東海道の道筋には、旅人をもてなす店がありました。

四日市のお土産としては、なが餅、日永うちわなどが有名です。なが餅は平たく細長い形の餅です。日永うちわは丸い竹を使った「丸柄」が特徴で、京うちわ、丸亀うちわと並んで全国的に有名で、お伊勢参りのお土産として人気がありました。



四日市・広重の浮世絵(四日市市立博物館提供)

【→P111*62】

- 三重県内の風物を描いた浮世絵や伊勢参宮名所図絵などについて調べてみましょう。

産業

四日市市

石油化学コンビナート

四日市市の臨海部には、赤白の高い煙突が何本も立っています。そこが石油化学コンビナートの工場がある場所です。

石油化学コンビナートでは、原油からさまざまな成分を取り出して製品をつくっています。その主な流れは、原油(石油)→ナフサ→エチレン→中間製品→製品です。このようにして私たちの身のまわりにある多くのものが石油からつくられています。例えば、「ポリエチレンの袋」は、「原油からナフサを取り出す工場→エチレンをつくる工場→ポリエチレンをつくる工場→ポリエチレンの袋をつくる工場」という流れでできたものです。各工場は、つくったものを送るため、パイプでつながっています。

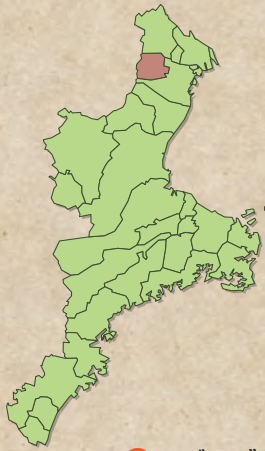
1960(昭和35)年頃から、大気汚染や水質汚濁などの公害がおこりました。住民の間で「四日市ぜんそく」の患者が増え、裁判になりましたが、工場は環境対策を重ね、四日市の空気や水は次第によくなりました。現在ではその対策を外国から学びに来るほどになっています。



四日市の石油精製工場

- 身のまわりの多くのものは、石油からつくられています。石油からつくられた製品にはどのようなものがあるか、調べてみましょう。

こもの 菰野町



- ① シデコブシ自生地
- ② 五百羅漢
- ③ 御在所岳と湯の山温泉
- ④ 千種演習場と幻の特攻用飛行場
- ⑤ マコモ(真菰)—— 全域



天然 記念物 菰野町

じせいち シデコブシ自生地

シデコブシは日本の固有種で、岐阜・愛知・三重のごく限られた地域の低地・低湿地に自生しています。

シデコブシは、過去の気候やその他の環境条件の変化に耐えて生き残った植物です。また、人間の営

みによる里山保全によって、生き残ってきたとも考えられます。

田光のシデコブシ及び湿地植物群落は、天然記念物であり、保護管理していく必要があります。

シデコブシは、サクラの開花とほぼ同時期の3月末から4月初めに開花します。花びらは、細長く散開したような形状で、ほのかに香りのある淡紅色や白色の弁の多い花を咲かせます。



シデコブシ (菰野町提供)

【→P 110*28】

■ 自然豊かな環境を大切に守り、次の世代に引き継いでいくために、今できることを考えてみましょう。

名勝

菰野町

ごひゃくらかん
五百羅漢

竹成五百羅漢は、県道田光・四日市線と千草・永井線の交差する竹成集落の中心にあります。1852（嘉永5）年2月に竹成出身の照空上人（神瑞和尚）が建立を發願し、桑名の石工・石長であった藤原長兵衛一門の手によって、1866（慶応2）年に完成したものです。1876（明治9）年の伊勢暴動により大日堂が焼失し、やがて五百羅漢のことも人々から忘れられ荒廃していきました。

しかし、1919（大正8）年、境内に竹成米の発見者松岡直右衛門の顕彰碑が建立されたことをきっかけに、整備されて今日に至っています。

小高く盛った土山の上に無数の石像が並び、座っているもの、立っているもの、空を仰いでいるものなど、各像各様の姿が見られます。大日如来をはじめ、四方仏、釈迦如来、普賢菩薩、七福神、役の行者、苦行の釈迦、天照大神、猿田彦、羅漢像など、石仏像の種類は変化に富んでいます。これらの石像からは、何かを語りかけてくれそうな親しみ深さを感じることができます。



五百羅漢（菰野町提供）

【P110*28】

■ 全国各地にある五百羅漢について調べてみましょう。

自然

菰野町

ございしょだけ
御在所岳と湯の山温泉

鈴鹿国定公園は、三重県と滋賀県の県境となっている鈴鹿山脈一帯に広がる国定公園で、1968（昭和43）年に指定されました。鈴鹿山脈は、通称セブンマウンテンと呼ばれる海拔1000～1200mの高さの山々が中心となっています。

中でも特にロープウェイで登頂できる御在所岳（1212m）は、四季を通じてたくさんの観光客を迎えています。またこの山には、キリンマミドリシジミやニホンカモシカ【→P104】、ブナの原生林、草本植物群など、珍しい生物がたくさん生息しています。

ふもとの湯の山温泉には、三滝川の渓谷沿いに旅館街があります。一帯は名古屋・大阪といった大都市圏とのアクセスに優れ、豊かな自然にも恵まれているので、レクリエーション、レジャー、スポーツの拠点として発展しています。温泉街には情趣のある旅館があり、文豪志賀直哉も滞在し、短編『菰野』を執筆しています。



御在所岳（菰野町提供）

【→P110*28】

■ 県内にある国立公園、国定公園について調べてみましょう。

歴史

菰野町

ちくさ まぼろし とっこう
千種演習場と幻の特攻用飛行場

へいほう じつだんしゃげき

兵砲の実弾射撃の訓練が行われていました。この演習場は、当時の千種村の村民たちの協力によって建てられ、諸物資の調達なども任されていました。終戦までの35年間続いた演習場も、今ではゴルフ場用地となり、他は自然豊かな山林の姿に戻っています。

1945(昭和20)年の春、現在の竹永小学校から南に広がる田畑に、特攻隊の出撃する飛行場(幅150m・全長約3000m)の建設が行われました。完成後、一機の特攻用戦闘機が飛来しましたが、実際に戦闘に使われることなく終戦を迎えました。現在この場所は、緑豊かな田園風景が広がっていますが、清掃センター近くのテレビ塔が立っている丘に、竹永陸軍特攻用飛行場の指揮所用防空壕が2つ残っています。



竹永陸軍特攻用飛行場跡(三重県教職員組合提供)

- 県内に残る防空壕などの戦跡について調べてみましょう。

特産物

菰野町

まこも
マコモ(真菰)

マコモはイネのなかまで、昔から日本各地の池や沼、川岸などに生えていて、稲作が伝来する弥生時代までは、人々の食糧とされていました。マコモの草丈はおおよそ1~2mになり、実をつけます。形は6千万年から1億年前も同じであったことが、化石の発見によって確認されています。

若い茎にマコモ黒穂菌がつくと、茎が柔らかく大きくなって、白く細いタケノコのようにになります。これをマコモタケといい、中国や日本では食用とされています。食物せんいやビタミンなどをたくさん含み、健康や美容によいことがわかっています。

マコモは、菰野の町名にゆかりのある植物といわれています。郷里制の頃、菰野は「伊勢国三重郡葦田郷」の中の薦野で、伊勢神宮の神領地でした。そこは、マコモがいっぱい生い茂る野原だったようです。その後、住んでいた人たちが、その野原を耕して田や畑にかえていき村ができ、マコモの野原であったことから「菰野町」という名前がつけました。このマコモは、菰野の名のゆかりとして、菰野にとって大切な植物なのです。



マコモ(菰野町商工会提供)

【→P110*28】

- みなさんの地域にある特産物について調べてみましょう。

あさひ 朝日町



- ① 国学者 橘守部
- ② 繩生廃寺
- ③ 萬古焼中興の祖～森有節～

人物

朝日町

たちばなもり べ

国学者 橘守部

橘守部は、江戸時代の国学者です。国学とは、古事記や万葉集などの古典を研究することにより、日本固有の生活や精神を理解しようとする学問で、その代表と

して松坂の本居宣長【→P38】がよく知られています。守部は、1781(天明元)年小向に生まれました。守部の父飯田長十郎元親は、亀崎(川越町)や金井(桑名市)などの村々を管理する大庄屋格で、津の国学者、谷川土清【→P35】の門人であったといわれています。

守部が17歳のとき、一家離散のため江戸に移り、20歳を過ぎてから学問を志すという、当時としては晩学でした。その後、武蔵国幸手(現在の埼玉県幸手市)に移って学問に励み、49歳のとき再び江戸に戻りました。当時の国学界は本居宣長が主流であったのに対し、守部は宣長の学説を批判し、神話の解釈や古典の研究に独自の学説を展開しました。また、守部は多数の著作を残し、多くの門人の指導にあたりました。その業績が認められ、天保の国学四大家に数えられています。



橘守部(群馬県立文書館所蔵 吉田允俊家文書提供)

【→P110*3】

■ 三重県出身の他の国学者についても調べてみましょう。

史跡

朝日町

な お はい じ
縄生廃寺

縄生廃寺は、江戸時代から「金光寺跡」として知られ、戦前には土取りの際に瓦片が多量に出土したと伝えられています。

1986(昭和61)年9月から翌年3月に行われた発掘調査で出土した軒丸瓦などから、7世紀末から8世紀初頭に造営された奈良時代の古代寺院であることが確認されました。

塔は東西10メートル、南北10.2メートルの基壇(建物の台の部分)上に建てられ、基壇部分は地面を削りだし、瓦を積んだ「瓦積基壇」とよばれる建築方法が施されていました。

心柱が建てられた心礎は、基壇の上面から1.5mほど掘り下げて置かれる「地下式心礎」となっていました。また、出土した3種類の軒丸瓦のうち、奈良

県の山田寺や川原寺の軒丸瓦によく似たものがあり、創建時期の判断の決め手となりました。心礎の中心に開けられた舍利孔(小さな穴)から、唐三彩碗をとまなう舍利容器(釈迦の骨といわれる「舍利」をおさめるもの)が発見され、日本で最も古い例の一つとして1989(平成元)年に国の重要文化財に指定されました。



唐三彩の容器と出土した瓦(朝日町教育委員会提供)



【→P110*3】

- あなたの住んでいる地域に残っている遺跡について調べてみましょう。

伝統工芸

朝日町

ばん こ やきちゆうこう そ もりゆうせつ
萬古焼中興の祖～森有節～

紫泥の急須や土鍋など、萬古焼は、四日市市の地場産業として有名です。その発祥は、桑名の豪商沼波弄山が江戸時代の元文年間(1736～1740)に朝日町の

小向に窯を開いたことにさかのぼります。弄山の没後、萬古焼は一時途絶えましたが、桑名の田町に生まれた森有節が、弟千秋とともに小向の名谷に窯を開き、1832(天保3)年、萬古焼を再興しました。

有節は、急須や土鍋などの成形に特殊な木型を使用し、量産を可能としました。急須の内部には龍が浮き出るように木型にその文様を刻みました。

また、鮮やかな桜色の釉薬の開発にも日本で初めて成功し、世の喝采を浴びました。これらの業績により、有節の作り出した萬古は「有節萬古」と呼ばれ、「萬古焼中興の祖」として、その名は現在でも語り継がれています。【→P14】



森有節(朝日町歴史博物館寄託資料)



有節作の酒器(朝日町教育委員会提供)

【→P110*3】

- 萬古焼のように、現代も技術が受け継がれている伝統工芸品について調べてみましょう。

かわごえ
川越町



- ①電力の町「川越」
- ②水辺の町「川越」

産業

川越町

電力の町「川越」

川越町は、1959（昭和34）年の伊勢湾台風【→P7】による未曾有の大災害を契機に、住民を水害から守る安全性と企業誘致による地域の発展と住民福祉の願いをこめて地先の海面埋立事業を考え、1973（昭和48）年埋立事業が完成しました。この埋立地に中部電力川越火力発電所があります。1989（平成元）年に1号機（70万kw）が、その翌年に2号機（70万kw）が、1996（平成8）年に3号系列（170.1万kw）が、その翌年に4号系列（170.1万kw）がそれぞれ運転を開始しました。燃料は液化天然ガス（LNG）を使用しています。1・2号機の発電方式は、超々



発電所管理室（川越町提供）

臨界圧二段再熱方式を採用し、熱効率46.3%を達成しています。3・4号系列は、コンバインドサイクル発電方式を採用し、1・2号機を上回る熱効率53.9%以上を達成しています。

この発電所の総出力は480.2万kwで、世界最大級の火力発電所です。付随した施設には、地球というスケールでエネルギー資源の有限性を認識した上で、エネルギーと生活との関わり方にいたるまでを理解できる「川越電力館テラ46」や、発電所の排熱エネルギーを利用した「温水プール」等があります。

- 火力発電以外の発電についても調べてみましょう。

自然

川越町

水辺の町「川越」

【朝明川】「川越」の名が示すとおり、町の北東端を員弁

川、町内を朝明川が流れています。朝明川の河川敷には、自然の緑がたくさん残っています。また、美しい高松海岸を形成し、伊勢湾に注いでいます。

【高松海岸】町内に残る美しい砂地の海岸です。遠浅の干潟には、いつも海鳥が集まり、貴重な自然が残っています。海鳥の餌場になる干潟には魚介類や虫が多数生息し、多くの種類の植物が自生しています。高松海岸は、人々の憩いの場でもあります。潮干狩り、釣り、マリンスポーツなど、休日ともなると、近隣の市町からも憩いを求めて大勢の人々が訪れます。

【水路】古い歴史を感じさせる家並みが残る地区の水路には、きれいな水が流れ、コイが放流されています。歩く人をほっとさせてくれる水辺の景観を形成しています。



水路 (川越町提供)

- あなたが住むまちの近くにある干潟には、どんな魚介類や虫、植物が生息しているか調べてみましょう。

COLUMN
コラム

砂浜の海岸は、生きものたちの楽園

伊勢湾沿岸には、砂浜海岸の環境が広がっています。砂浜海岸は、乾燥や塩分を含む潮風など厳しい環境のように思えますが、その一方で、たくさんの種類の生きものたちが見られるすばらしい自然環境でもあります。

5月頃には、淡いピンクの花を咲かせるハマヒルガオや白い花を付けるハマボウフウが咲き乱れ、美しい花畑になります。その代表に津市河芸町芦原海岸が上げられます。一見、小型のクワガタムシのように見える肉食性昆虫のオオヒョウタンゴミムシも生息しています。また、砂浜は、県の鳥であるシロチドリ繁殖地でもあり、海辺には、ゴカイ類、カニ類、貝類などを求めて、シギ類やカモメ類などのたくさんの鳥たちが集まります。5月から8月頃の夜間には、産卵のためにやってくるアカウミガメも見られます。

しかし、砂浜の海岸の周辺は、埋め立てなどの開発によって生きものの生息環境が悪化したり、波の浸食により砂浜が先細ったりしてきていることから、砂浜の海岸に生息する生きものたちの多くが、絶滅のおそれのある状態になってきています。海辺の生きものたちに関心をもって自然の大切さを学び、保護しましょう。【→P84】



ハマヒルガオ・ハマボウフウの群落



オオヒョウタンゴミムシ



産業
鈴鹿市

自動車産業

鈴鹿市の工業の中心は、自動車産業です。1960（昭和35）年、旧軍用施設跡地に自動車組み立て工場を誘致しました。現在では、市内の事業所数の20%以上、従業者数の50%以上、製造品出荷額の75%以上が自動車等の組み立て工場とその関連の工場で占められています。生産の中心は小型車で、約50%が輸出されています。1979（昭和54）年、この企業は日本の自動車会社で初めてアメリカで現地生産を行いました。その後、海外工場へ技術支援をするマザー工場の役割も担っています。また、工場のあるオハイオ州ベルフォンテン市とは友好都市の提携をしています。

1990（平成2）年、入国管理法の改正により外国人労働者が増加し、2009（平成21）年、鈴鹿市の外国人登録者数は9405人で、三重県で最も多くなっています。国籍別にはブラジル国籍が約46%を占め、その多くが自動車関連の工場です。

工場の近くには、世界的にも有名なレーシングコースがあり、国際レースが開催され多くの観客が訪れるなど、日本のモータースポーツの聖地ともいわれています。



本田技研工場（鈴鹿市提供）

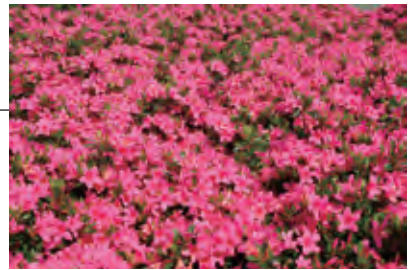
▪ 自動車が海外で現地生産されるようになった理由を調べてみましょう。

産業

鈴鹿市

サツキ

三重県は植木の生産がさかんで、特に公園や道路の緑化樹木や庭木として植えられているサツキ、ツツジは、全国で1位の生産額を誇っています。県内では、鈴鹿市が市町村別の植木生産額が全国第2位（2005年度）で、市の花でもあるサツキの生産量は全国一を誇り、「三重サツキ」というブランド名で全国の街を彩っています。



サツキ（鈴鹿市提供）

生産の中心地は石薬師地区で、「黒ぼく」とよばれる真っ黒な土は有機質を含み、保水性と排水性に富んで粘性が少ないため、植木の生産に適しています。また、「密閉挿し」という、水やりの手間が省け活着率の良い挿し木の技術が発達しているため、均一な製品を大量に生産できることが強みとなっています。

植木の生産は、1870（明治3）年に、石薬師へ移住した人々が始めたのが最初といわれています。1955（昭和30）年頃から共同仕入れや、栽培技術の向上などにより生産量を増やしてきました。そして高度経済成長期には、東京オリンピックや大阪万博に代表される公共工事等に大量出荷が行われ、公害問題に伴う緑化の推進などにより生産量を増やしてきました。近年は、公共工事や個人住宅の庭の減少などから需要が減少していますが、屋上緑化や壁面緑化など、地球温暖化対策に向けた都市環境の改善の緑化素材として注目を集めています。

サツキの都道府県別生産額2006（平成18）年

順位	都道府県	生産額（千円）
1	三重県	1,570,776
2	栃木県	1,431,588
3	東京都	775,400
4	福岡県	656,155
5	千葉県	240,160
総生産額		5,854,859

「平成18年花木等生産状況調査」
（農林水産省提供）

■ サツキの生産が増加した時期の時代背景を調べてみましょう。

人物

鈴鹿市

大黒屋光太夫

1792（寛政4）年、根室に來航したロシアのラクスマンに伴われて帰国し、ロシアや西洋に関する非常に多くの情報を日本にもたらしたのが、伊勢国南若松村出身の大黒屋光太夫です。

当時、江戸と上方を結ぶ廻船の拠点として賑わっていた白子港の廻船問屋に雇われて船頭をしていた光太夫は、1782（天明2）年、江戸へ向けての航海の途中暴風雨に遭い、アリューシャン列島のアムチトカ島に漂着しました。その後、帰国の許可を得るためロシアの首都ペテルブルグへと大陸を横断する大旅



行を行う途中、日本と異なる文化に触れる中で見聞を深めました。

帰国後は江戸で過ごし、学者や大名などにロシア語をはじめとする情報を提供し、蘭学の発展に大きく寄与することになりました。

☞ 光太夫（左）と磯吉（鈴鹿市提供）



大黒屋光太夫の軌跡（鈴鹿市提供）

【→P111*43】

■ 江戸時代の後半、外国の情報を日本にもたらした人物について調べてみましょう。

人物
鈴鹿市

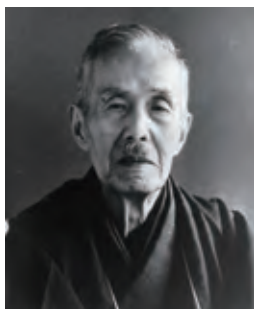
さ さ き の ぶ つ な
佐佐木信綱

鈴鹿市石薬師町出身の歌人・国文学者で、万葉集・古典文学の研究や註釈、復刻にも力を尽くした人物が佐佐木信綱です。苗字の「佐佐木」は、中国で名刺を作った時に、印刷の字に本来の「々」が無かったことによるもので、以後好んで使うようになったといわれています。

1872（明治5）年、歌人佐々木弘綱の長男として生まれた信綱は、父の教えを受け5歳から作歌を始め、帝国大学文学部を卒業後、和歌の実作と研究を生涯の目標とし、万葉古写本の発見複製、『校本万葉集』の編集などに大きな功績を残しました。主な著書に『日本歌学全書』『和歌史の研究』『万葉集事典』や、自ら主宰した竹柏会の機関誌『心の花』や歌集『思草』『新月』などがあります。

また、東京帝国大学で26年間にわたり歌学史などを教え、門下生からも有名な歌人が出ています。1934（昭和9）年帝国学士院会員に、1937（昭和12）年には文化勲章を受章し、帝国芸術院会員となりました。

現在、生家は隣接する佐佐木信綱資料館と併せて、佐佐木信綱記念館となっています。



佐佐木信綱



佐佐木信綱資料館（鈴鹿市提供）

【P111*34】

▪ 佐佐木信綱の歌を調べてみましょう。

伝統工芸
鈴鹿市

す す か す み
鈴鹿墨

鈴鹿墨は奈良時代、鈴鹿の山の松脂を燃やしてすすをとり、墨を作ったのが始まりと伝えられています。江戸時代になると、武家のなかで袴が流行し、小紋や家紋の墨染め用や紋書き用として、より上質な墨が必要となりました。また、寺子屋の発達も墨の需要を増大させ、鈴鹿墨は現在の鈴鹿市白子地区を中心に、紀州藩の保護のもとに発達しました。現在も昔ながらの技法を用いて製造され、その生産量は全国の約3割を占め、奈良市と共に、墨の二大産地になっています。

製造工程はほとんど手作りによるもので、すすと膠の混ぜ合わせから始まり、型に入れ、乾燥後仕上げをします。完成まで約100日間を費やし、長年の伝統と経験で身についた技術によって作られています。1980（昭和55）年に国の「伝統的工芸品」に指定され、「伝統工芸士」に認定された墨匠が、その技術を伝えています。

【→P101】



鈴鹿墨（鈴鹿市提供）

【→P111*39】

▪ 鈴鹿の墨づくりが発達した理由を調べてみましょう。



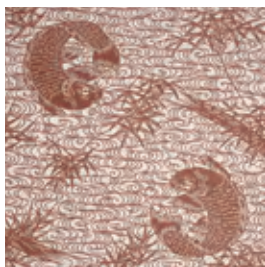
いせかたがみ 伊勢型紙

伊勢型紙とは、和紙を加工した紙（型地紙）に、鋭利な彫刻刀で文様や図柄を彫り抜き、柄や文様をきものの生地に染めるのに用いるものです。現在は、鈴鹿市の

白子・寺家地区を中心に生産され、全国各地に出荷されています。起源は定かではありませんが、室町時代の職人を描いた絵画に、型紙を使う染職人が描かれていることから、室町時代末期には確実に存在していたと考えられています。江戸時代には紀州藩の保護を受け発展しました。

1983（昭和58）年に国の「伝統的工芸用具」の指定を受け、「伝統工芸士」に認定された職人によって伝統技術の維持向上が図られています。近年は、染色用具だけでなく、美術工芸品や建具・インテリアとしても注目を集めています。

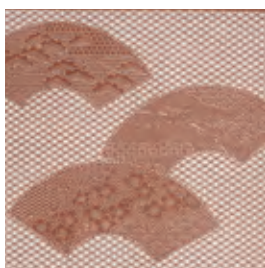
また、1993（平成5）年には重要無形文化財に指定され、伝統的な技術が高い評価を受けています。【→P101】



突彫（つきぼり）



錐彫（きりぼり）



道具彫（どうぐぼり）



縞彫（しまぼり）

彫刻技法

伊勢型紙
（鈴鹿市提供）

【→P110*9、P111*39】

■あなたが住んでいる地域にある伝統工芸品について調べてみましょう。

COLUMN コラム

とうじんおど 三重県内に伝わる唐人踊り

朝鮮通信使ゆかりの唐人踊りが現在も残されているのは、岡山県瀬戸内市牛窓町、三重県の鈴鹿市東玉垣町、津市分部町の3か所のみです。外国の文化にふれることのなかった当時の人たちにとって、通信使の衣装や音楽・楽器・踊りはめずらしかったのでしょう。通信使の通り道から遠く離れたこの三重の地で郷土芸能、唐人踊りとして今も引き継がれていることから、通信使が人々に大きな影響を与えたことがうかがわれます。

津市分部町に伝わる唐人踊りは、1636（寛永13）年に津市八幡宮の祭礼として始まった祭りの出し物のひとつです。以来、分部町では、戦争などによる中断をはさんだものの360年以上にわたり続けられています。

この唐人踊りは、1991（平成3）年に、三重県無形民俗文化財に指定されました。【→P34】

また、鈴鹿市東玉垣町の牛頭天王社祭礼に奉納される唐人踊りも古い伝統を持ち、地域の保存会のみなさんの努力で今に伝えられています。1975（昭和50）年には鈴鹿市の無形文化財にも指定されています。なお、鈴鹿市白子本町の青龍寺には、第11次朝鮮通信使（1764年来日）の通訳官が書いた額が残されています。

生徒用人権学習教材『わたし かがやく』【P55引用】



津市分部町の唐人踊り

かめ やま
亀山市



- ① 液晶テレビ工場
- ② 坂本の棚田
- ③ 亀山のろうそく工場
- ④ 亀山宿から関宿へ

産業

亀山市

えきしょう
液晶テレビ工場

亀山・関テクノヒルズ工業団地の中に、2002（平成14）年2月に三重県や亀山市が誘致した液晶テレビ工場があります。この工場は液晶パネルから液晶テレビの組み立てまで、一度に生産する世界初の工場です。ここで生産されたテレビは、「亀山モデル」と呼ばれるブランドとなりました。

亀山は古くから交通の要所で、自動車専用道路や高速道路、鉄道などの交通機関が整備されてきました。天理市（奈良県）と多気町（三重県）には、同じメーカーの液晶パネル工場があります。自動車専用道路や高速道路を使うと、約1時間から2時間で行き来できる距離です。また、三重県の「クリスタルバレー構想」により、この工業団地には液晶テレビの関連メーカーが立地するようになりました。

工場の屋上や壁面への太陽電池パネルの設置、排水の100%再利用、雨水の空調への利用等、環境に配慮した工場としても注目を集めています。



液晶テレビの組立（シャープ（株）提供H16年撮影）

- 亀山にこの工場が誘致された理由を調べてみましょう。

地理

亀山市

さかもと たなだ
坂本の棚田

坂本の棚田は、亀山市北部「野登山」南麓の亀山市安坂山町の山間部にあります。この棚田は、約400年前から築かれ始め、明治時代の初期には現在の様な形になったといわれており、大変歴史ある棚田です。現在は面積約23ha、440枚の棚田があります。

棚田を下から見上げると、城の石垣のような石積みが目に入ります。田の法面を費用も手間もかかる石積みでつくっていることが特徴的です。坂本でとれる米は、水の良さと手間ひまかけた栽培のため、「色つやが違う」といわれているそうです。

山の天然水が田を潤して、四季折々に表情を変える棚田の風景が素晴らしく、1999（平成11）年には、農林水産省の「日本の棚田百選」に選ばれました。これを契機に、稲作農家が中心となって40戸からなる「坂本棚田保存会」が結成され、棚田の保全活動を始めました。農家の高齢化が進んでいますが、坂本棚田野上がりまつりや餅つき大会、写生大会など様々なイベントを通して、交流の輪を広げています。



坂本の棚田（亀山市歴史博物館提供）

【→P110*18、P111*32】

- 山あいの地など、自然環境の厳しい場所で作物を作るための昔の人々の工夫について調べてみましょう。

産業

亀山市

亀山のろうそく工場

亀山市内には、ろうそくを専門に製造する工場があります。2007（平成19）年に創立80周年を迎えた伝統的な工場です。現在本社は大阪府ですが、亀山市を中心に工場や商品のショールームがあります。

今では一般的な製品であるスパイラル（らせん状）型キャンドルですが、この工場では、それを第二次世界大戦前につくり、アメリカへ輸出しました。日本一大きいろうそくメーカーであり、国内シェアは約5割あります。世界でも有数のメーカーです。

ろうそくは、古くから明かり用・仏事用として使われてきましたが、このメーカーでは、ろうそくを広めるために様々な工夫をしてきました。その例として、1970年代初めに結婚式のキャンドルサービスを考え出しました。2002（平成14）年にはキャンドルリレーという結婚式のスタイルを発表するなど様々な工夫を続けています。現在では、アロマキャンドルやインテリアキャンドルなど、様々なキャンドルも販売しています。



様々なキャンドル（亀山商工会議所提供）

- あなたの身近にある工業製品には、どのようなメーカーの工夫やアイデアがあるのか調べてみましょう。

文化財

亀山市

かめやまじゆく せきじゆく
亀山宿から関宿へ

亀山・関は古代から畿内と東国を結ぶ交通の要所で、江戸時代には街道としての東海道が整備され、市内には亀山宿、関宿、坂下宿の3つの宿場町がありました。



亀山城下の模型（亀山市歴史博物館提供）

現在も鉄道や国道、高速道路の分岐点として重要な役割を果たしています。

1482（文明14）年に書かれた文書に「亀山」という文字が見られることから、15世紀の終わりには町が成立していたようです。江戸時代には亀山城下を含めて、露心庵（今の栄町）から京口門（今の西町）までの約2.5kmの範囲が宿場町として発展しました。

亀山城は、1265（文永2）年には今の若山町にありましたが、16世紀中頃に関氏が現在の場所に築いたといわれています。1582（天正10）年の本能寺の変で織田信長が自害した後、台頭した羽柴秀吉（後の豊臣秀吉）

と秀吉に反対する戦国大名たちの勢力争いに、関氏をはじめ北勢地方の領主や武士たちも巻き込まれました。1583（天正11）年2月、羽柴秀吉は3万の軍勢を率いて、安楽峠（石水溪上流部）を越えて、亀山城、峯城（今の川崎町）などを攻めました。江戸時代になると、丹波亀山城とまちがえられて天守が取り壊されたといわれています。しかし、交通の要所であったため、徳川家康や秀忠、家光など将軍が上洛する際の宿となり、亀山城主の多くは譜代大名がつとめました。

多聞櫓は県内唯一の現存する城郭建築であり、亀山西小学校の北には二之丸北埋門と帯曲輪が復元されています。また、亀山市歴史博物館にある模型からも、当時の亀山の様子がよくわかります。

関には、古代三関の一つ「鈴鹿関」が置かれていました。鈴鹿関が歴史に登場するのは672年の壬申の乱の頃で、789（延暦8）年、桓武天皇によって廃止されました。その場所は関町新所とする説が有力で、2006（平成18）年、西の城壁と見られる築地が発見されました。

中世の頃には地蔵院の門前町が形成され、次第に宿場町として整備されていきました。現在のような町並みの基礎が築かれたのは、1583（天正11）年に中町が整備された頃だと考えられています。江戸時代には大和街道と伊勢別街道が分岐する宿場町となり、参勤交代や伊勢参りなどの人々で栄えました。江戸時代末の1843（天保14）年には、戸数632戸・人口1942人を数えました。

山車がひき出される夏祭りもよく知られ、最盛期には狭い関宿いっばいに16基もの山車がねり、限界を表す「関の山」という言葉が生まれました。

関宿は、旧東海道の中で唯一歴史的な町並みが残ることから、1984（昭和59）年、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。その保存とともに、歴史的な町並みの特性を活かした新しい町づくりに取り組んでいるところです。【→P98】



関町中町の町並み（亀山市教育委員会提供）

【→P110*18、*19、P111*40】

- 亀山宿には家々に当時の屋号や職業の看板をかけるなどして、昔の面影の再現に努めています。あなたが住んでいる地域の昔の面影や様子を調べてみましょう。